

# 日本リアルオプション学会 (JAROS)<sup>1</sup>

## 機関誌 投稿要項とテンプレート

2020年4月7日 改定

機関誌 編集委員会

高森 寛(早稲田大学) 佐藤清和(金沢大学)  
森平 爽一郎(慶應大学) 伊藤 晴祥(青山学院大学)

要約 学術論文でないかぎりこの「英文要約」を書く必要はありません。

キーワード: ワード、テンプレート、リアルオプション学会、機関誌

### 1. はじめに

日本リアルオプション学会は、論文誌と機関誌を発行している。

学会誌は学術的な論文を掲載することを目標とし、掲載にあたっては査読を行うことを原則とする。

これに対し、機関誌は、招待論文並びに投稿論文を掲載する。投稿論文は査読を原則とする。

機関誌掲載の招待あるいは査読論文としては、これに限るわけではないが、例えば次のようなテーマを考えている。

1. 紹介および解説記事: 本学会からみて、隣接あるいは関連分野・領域の動向の紹介
2. 研究メモ: 研究上の新しいアイデア、異なるモデル間の関連性、研究成果のまとめ、リアルオプション研究のための数値解析・統計・計量経済学などの手法の解説、コンピュータシミュレーションやプログラム、学部や修士論文の要約
3. リアルオプションの他分野での応用の紹介: 例えば、会計学、知的財産企業の合併・買収(M&A)の応用など
4. 論説、書評、研究サーベイ
5. リアルオプションに関連した事例研究
6. 研究室だより: 研究紹介、これまでの研究経緯など

この覚書は、執筆にあたっての注意事項と論文テンプレートを兼ねたものである。

機関誌の執筆にあたって 執筆者が念頭に置くべきことを以下に列記する。

### 1.1 機関誌原稿 1 ページの概要と文字数の上限

機関誌原稿は、このテンプレートをもとに書かれたワードファイルを PDF ファイルとした上、冊子体の発行ならびに Web 上での公開を行う。

原稿のフォーマットは次の通りである。

- 1) A4 縦、2 段組
- 2) 本文は明朝 10 ポイント、英数字: Times New Roman 10 pt とする。
- 3) 脚注は明朝 9 ポイント
- 4) 1 行は 23 文字
- 5) 1 段は 48 行

従って、A4 で 1 ページの文字数は 23 字×48 行×2 段 = 2,208 字となる。

LaTeX 原稿での投稿を希望する著者は、事前にその旨の希望を編集委員会あて連絡をしてほしい。LaTeX 原稿で投稿されたものであっても、最終的にはワード原稿での版下を作成し、それを PDF 原稿にすることによって冊子体の発行や Web 上での公開を行うことを著者は了承するものとする。

### 1.2 このテンプレートの取得

このテンプレートの取得は[学会ホームページ](#)<sup>2</sup>より可能である。

### 1.3 原稿枚数

機関誌の原稿は、1 論文あたり、おおよそ 10 ページ(22,000 字ほど)を上限とする。それ以上のページ枚数の原稿を執筆する投稿者に関しては機関誌編集委員へご相談頂きたい。またその場合分割掲載となる可能性もある。

### 1.4 発行回数と投稿締切日

#### 1.4.1 発行回数

機関誌は、年 2 回から 4 回の発行を原則とする。

#### 1.4.2 投稿締切日

以上の様な刊行スケジュールを円滑に進めるため、

<sup>1</sup> このワード・テンプレートは 2042 年 4 月 7 日現在のものである。予告なしに改定される場合がある。

<sup>2</sup> 学会 HP は <http://www.realopn.jp/>

刊行予定月の前月 15 日を投稿締切日とする。例えば、4 月刊行(第 1 号)に掲載予定の論文は、3 月 15 日が締め切りとなる。それ以降に投稿された論文は次号になる場合がある。特に査読を希望する論文は締め切りを厳守されたい。

### 1.4.3 増刊号

掲載希望論文が多くなる場合は、年末から年始にかけて増刊号を発行する場合がある。また、特別なテーマに基づき臨時の増刊号を発行することもある。その場合は、事前に論文掲載を呼びかける案内(Call for Paper)を、定期刊行号あるいは学会ホームページで周知することとする。

### 1.5 執筆に用いる言語

機関誌では日本語あるいは英語で執筆された論文を受理する。

### 1.6 刊行形態

機関誌は紙媒体での公開と Web 上での公開の二本立てとする。Web 上での公開は現在のところは、学会ホームページを通じてのみであるが、近い将来には、J-Stage での公開を目指している。学会員には紙媒体での配布をおこなう。

### 1.7 冊子体と Web での公開の違いについての注意

冊子体での機関誌は「白黒」印刷であるのに対し、Web 上での公開は、PDF 原稿であるため、文字、注番号、図表、[ハイパーリンク](#)などは色付きが可能であることに注意。

### 1.8 査読論文

機関誌における査読希望論文は、実務上の有用性、提供情報の意義と充実度、理解容易度など、論文誌とは、別の視点からの査読がなされる。「査読を希望する論文」として投稿が可能になる。

短い期間での採否の決定、あるいは修正の依頼をすることを目指す。査読を希望する論文は、概ねこの機関誌で 10 ページ程度とする。それ以上になる場合には分割掲載となる場合がある。査読付きの論文はそのことを機関誌目次と掲載ページの最初に告知する。

### 1.9 参考文献

参考文献の表記方法は、この執筆規定の最後の「参考文献欄に載せられたように、シカゴスタイルに準拠するものとする 3。

### 1.10 数式

複雑な数式展開が必要な場合は、数学付録としてまとめることが望ましい。また、10 ページの頁制限以上の原稿になる場合には、「オンライン付録」とし

てまとめることも望ましい。

### 1.11 数式

数式は、ワードの数式ビルダや Decision Science 社の [Math type](#) をあるいは Word での数式を用いることとする。例えば、次の網掛け部分のように記述する。

$$C_0 = S_0 N(d_1) - Ke^{-rT} N(d_2) \quad (1.1)$$

ここで、 $C_0$  は現時点のコール・オプション価格、 $S_0$  原資産価格、 $K$  は行使価格、 $r$  はリスクフリーレートをしめす。また  $N(\bullet)$  は標準正規分布の分布関数を、その引数はそれぞれ、

$$d_1 = \frac{1}{\sigma\sqrt{T}} \left( \ln\left(\frac{S_0}{K}\right) - \left(r + \frac{\sigma^2}{2}\right)T \right) \quad (1.2)$$

$$d_2 = d_1 - \sigma\sqrt{T}$$

を意味する。

といったように表記する。数式を Mathtype で記述した場合、行間が大きくなる場合があるが、その場合は該当箇所(例えば上の網掛け部分)をドラッグした後、ワードで >ページレイアウト>段落で右下のXをクリック > 間隔 > 行間 (N) > 最小値 > 間隔(A)をゼロポイントとすること。

### 1.12 図表

機関誌では、図と表を分けて番号とその説明(Caption)をつける。図の番号と説明は図の下部に、表については上部につけることとする。たとえば図の場合、図 1 の通りである。

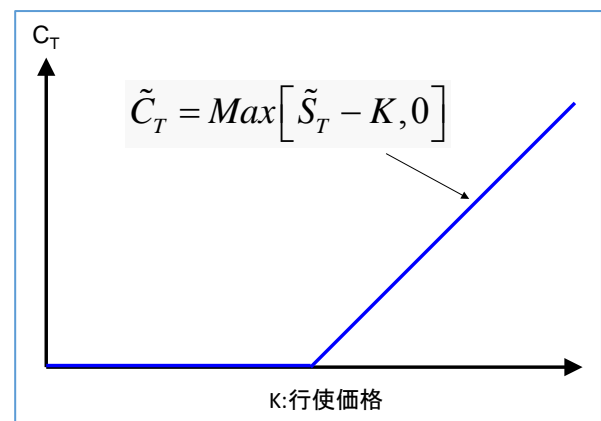


図 1 コール・オプションの満期ペイオフ

## 2. 投稿資格

講演要旨等の招待記事・論文以外については、投稿

[の書き方等](#) 第 7 章が参考になる

3 シカゴスタイルによる参考論文の表記方法については以下の参考文献を参照のこと。また [慶應義塾大学「学位論文](#)

された原稿の著者のすくなくとも、1名については、本学会会員であることを原則とするが、金融資産のみならず、実物資産を対象にするデリバティブに関する投稿を広く募集する。

### 3. 投稿料

機関誌の投稿にあたっては、当面、投稿料を徴収しないこととする。

### 4. 著作権

本誌掲載のすべての記事および論文は、その著作権が本学会に帰属する。

#### 4.1 図表等の引用

他者の図版等を使用する場合は著作権者の了解を得て、出典を明示すること。

### 5. 原稿の執筆要項、テンプレートおよび投稿フォーム

論文およびその他の投稿は[学会ホームページ \(http://www.realopn.jp/\)](http://www.realopn.jp/)の『機関誌への投稿のご案内』の欄から行おこなう。そこに「執筆要項兼原稿テンプレート」が添付されます。また、投稿原稿は、そこにある「原稿投稿フォーム」から行ってください。

### 6. 機関誌編集委員会への連絡

機関誌編集委員会宛に連絡がある場合には、次のメールアドレス宛にメールを送付してください。

kikanshi@realopn.jp

### 7. J-STAGE 掲載にあたり必要な和文抄録とキーワード

機関誌発行後3ヶ月を経過すると採択論文はJ-STAGEに搭載される。この場合、4,000字以内の和文抄録と10個以内のキーワードが必要になる。和文抄録は英文抄録の翻訳であっても、それと異なるものであっても構わない。キーワードは原則、論文1ページ目で示したキーワードを使用するが、全体で10個以内であれば追加することができる。和文抄録とキーワードを別紙A4一枚内で提出すること。

### 参考文献

1. Bachelier, L.,(1964) "Théorie de la spéculation", *Annales Scientifiques de l'École Normale Supérieure* 3 (17): 21–86. English translated in Cootner, P.H. (ed.) (1964), *The Random Character of Stock Market Prices*, Cambridge, MA: MIT Press

2. Brennan, M. J. (1979) "The Pricing of Contingent Claims in Discrete Time Models." *Journal of Finance* 34, no.1 (March, 1979): 53–68.
3. ケイト・L・トゥラビアン, 沼口隆 沼口好雄訳『シカゴスタイル 研究論文執筆マニュアル』, 12. 東京: 慶應義塾大学出版会.

### 付録

#### 付録 A.1 数学付録

#### 付録 A.2 制度の説明